

(様式第1号)

平成30年度 第2回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日時	平成30年8月28日(水) 午後3時00分～5時00分
場所	北館4階 教育委員会室
出席者	議長 今西 幸蔵 委員 野村 克彦 委員 渡辺 史恵 委員 井原 一久 委員 山崎 万里 委員 今村 一美 委員 亀田 吉信
欠席者	副議長 押谷 由夫
事務局	社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 茶嶋 奈美 生涯学習課管理係長 小山 慶子 生涯学習課管理係 桂樹 良子
会議の公表	<input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 会議の冒頭に諮り、出席者7人中7人の賛成多数により決定した。 <非公開・一部公開とした場合の理由> 公募提案型補助金制度の審議について、公平公正な意見を求める必要があるため、一部公開とする。
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会並びに研修会について(報告)
- (2) 阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会について(報告)
- (3) 社会教育関係団体公募提案型補助金について
- (4) その他

2 提出資料

- (1) 【資料1】平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会資料
- (2) 【資料2】平成30年度阪神南地区社会教育委員協議会第一回役員会(総会)資料
- (3) 【資料3】芦屋市社会教育関係団体公募提案型補助金交付対象事業の前期募集要項(改正案)
- (4) 【資料4】芦屋市社会教育関係団体公募提案型補助金交付要綱

3 審議内容

<今西議長>

まず、事務局に確認ですが、本日の会議の傍聴者はいらっしゃいますか。

<事務局：小山>

本日の傍聴希望者はおられません。

<今西議長>

現在傍聴者はいらっしゃらないということですので、このまま議事を継続させていただきます。それでは、まず議題（１）平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会並びに研修会についての報告を事務局からお願いします

<事務局：小山>

【事務局から説明】

<亀田委員>

7月4日の平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会に参加させていただきまして、鈴木真理先生の講演をお聞きしました。随所に冗談を交えながらお話をされていまして、講演の仕方が非常に役に立ちました。

<井原委員>

鈴木真里先生のユーモア溢れるお話を聞きながら、社会教育というものが本当に皆さんの中に定着しているのかなというところを、私どもの日々の活動の中に照らし合わせながらみていました。色々連携したりすることでできることが、色々な側面でたくさんあるのではないかと思いながら、聞かせていただきました。

<山崎委員>

研修会のみ参加させていただきました。肩苦しくて難しい内容かなと緊張していましたが、とてもユーモアを交えた講演で聞きやすかったです。先生のお話の中で、社会教育委員は多様性であったり、色々なことを学び続ける存在であるとおっしゃっておられましたので、この言葉を意識して、これからの会議においても学ぶことを続けていきたいと感じました。

<今西議長>

私の方から2点ございます。一点目は、第61回全国社会教育研究大会を兵庫県が担当するというので、本件についてこれから色々な形で事務局からお願いがあるかもしれま

せんが、その時はぜひご協力いただきたいと思います。全国大会で規模が大きいので、これからしっかり対応していかなければならないと強く思っています。現時点で具体的なことはわかりませんが、その都度事務局から報告があると思いますので、その時はよろしくお願いします。

二点目の平成30年度兵庫県社会教育委員協議会総会後の講演について、講師の鈴木先生は元々博物館を研究していらっしゃいました。非常に真面目な先生で、書物に関しては実はかたい文章を書かれる方ですが、当日はとても柔らかいお話で良かったと思います。ところで、鈴木先生が会長をされている全国社会教育委員連合会という組織ですが、運営資金的に非常に厳しい状況にあります。この団体については、少し予断を許さない状況にありますので、社会教育の火を消さないためにも、私自身は応援させていただいています。そのような状況なので、今後も何かありましたら、ご協力をお願いすることがあるかもしれません。

次に、議題（2）阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会について、事務局からご説明をお願いします。

<事務局：小山>

【事務局から説明】

<今西議長>

もともと私も出席予定だったのですが、先日の地震のために大学が休校になりまして、その補講のために急遽参加出来なくなりまして、誠に申し訳ございませんでした。

阪神南地区社会教育委員協議会については、昨年度は芦屋市が幹事市でしたが、今年は西宮市が幹事市なのですね。正式な開催案内が届きましたら事務局から改めてご連絡くださるとのことですので、よろしく願いいたします。

それでは、議題（3）社会教育関係団体の公募提案型補助金について、冒頭で事務局から説明がありましたように、補助金の審査に入りますので、3分の2以上多数により非公開の決定をいただければ、ここからは会議を非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

—異議なし—

<今西議長>

では、ここからの会議は非公開といたします。

—会議非公開—

—会議公開—

<今西議長>

事務局より議題（５）その他について、説明をお願いします。

<事務局：小山>

【事務局から説明】

<井原委員>

次回の教育委員との意見交換のテーマについて、いま、社会教育や文部科学省の政策等で学校と地域の連携ということが非常に謳われています。昨今、働き方改革という言葉が話題となっていますが、学校自身連携をする余裕がなくて、そのあたりが全然できていない、まったく違う方向に進んでいる気がするんです。そこを社会教育としてどうリカバーしていくのが非常に重要だと思っているので、そういったテーマに興味があります。

<渡辺委員>

私も同意見です。

<今西議長>

実はそのテーマは私も考えていました。地域学校協働本部について教育委員の方々はどう考えていらっしゃるのか興味があります。コミュニティ・スクールについては、芦屋市には長い歴史がありますよね。芦屋市のコミュニティ・スクールは国がいうコミュニティ・スクールと同じではありませんが、近いものを芦屋市は先駆的にやってこられていますので、そういったことを教育委員の皆さんとお話するのも良いですよ。

また、働き方改革のお話が出ましたが、部活動の問題は出てくると思います。部活動については、本来的には国は社会教育が担ってほしいと考えているんですよ。そういったお話をされても良いかもしれませんね。

<亀田委員>

教育委員と社会教育委員の違いについて考えてみたのですが、役割や規定について話をしても所詮違う立場ですからあまり論議にならないのかと思いついて、逆に、教育委員と社会教育委員の共通項は何かと考えてみました。それは芦屋の教育だと思うのです。芦屋の教育が現状どうなのかとか、どういう方向であったら良いのかとか、芦屋の教育というキーワードで何か論議してはどうかと思いついて、要は、芦屋市からもっとオリンピック選手を出そうとか、芦屋出身の有名な力士がいるのだから土俵を作ろうとか、なんでも良いのですが、芦屋をどんなまちにしたいのかという点で、教育委員会や学校教育はどうしていこうとか、地域ではそれをどう補っていこうとか、そんな話をテーマにしてお話しするのはどうだろうと考えておりました。

<今村委員>

私はずっと学校現場におりますので、先ほど話題に出ました学校と地域の連携のお話や、部活動の現状のお話はできます。学校も地域の皆さんに色々と支援をお願いしたいと

は考えているのですが、支援をお願いする前段階として、地域の人達との調整を担う人を確保するのが難しい、といったところです。

教育委員の皆さんとは普段、校長としての立場でお話させていただいておりますが、私自身、子どもたちは小さい頃から成長する過程で色々なことに関わっていくことが良いと思っているので、そういったお話を社会教育委員の立場からお話することもできると思います。

<今西議長>

学校の中で色々な調整を担う人材が欲しいですね。私も教頭経験者ですが、今の教頭先生は本当にお気の毒だと思います。そういった学校現場の課題について、皆さんでお話されても良いかもしれませんね。

<山崎委員>

P T A活動をしていて、年々仕事をしている保護者の割合が高まっていると感じます。個人個人働いている時間の長さや働き方は異なりますので、そうすると、P T A活動を進めていく上で今までのやり方ではスムーズな活動ができなくなってきていて、毎年一生懸命色々な意見を出して活動を続けていただいているのですが、時代が変わってきているなと感じています。ですので、時代時代にあった社会教育のあり方というか、考え方・見方みたいなものを学べる機会があれば良いなと思いました。

<野村委員>

どうしてそんなに先生が忙しいのか、不思議で仕方がないです。

<今西議長>

とても忙しいですよ。一番の問題は生徒指導ですね。それと保護者のクレーム対応もあります。

<野村委員>

それは先生の問題だけではないですね。

<今村委員>

昔と違って今は個別対応が多いですね。

<井原委員>

学校に事務員を配置して、クレームだったりとかを処理させる機能がそこにあればだいぶ簡素化される気はするんですけどね。今は全部それを教頭先生が担われていますよね。

<今西議長>

アメリカには生徒指導担当にカウンセラーがいるので、クレーム等は全部カウンセラーにいくようになっていますが、日本ではそれを全部教員が担っています。仮に若い教員が対応を間違えたりすると余計に問題が大きくなって大変になるので、管理職も慎重になっ

ています。ですので、問題はたくさんあるでしょうね。

<井原委員>

先生がみんなスーパーマンを求められるので可哀そうだと思います。先生がビクビクしながら仕事をしていらっしゃる印象があって、それは本来の在り方と違うような気がしています。

<今西議長>

そうですね。

本日色々な意見が出ましたので、これを押谷副議長と事務局とで相談させていただいて、一つにまとめていきたいと思います。ご要望と異なるかたちになるかもしれませんが、ご容赦いただきたいと思います。

それでは、これで会議を閉会いたします。

以 上